



TITLE:

ちかり、ちかり小星/ 海外通信/ 岡山支部二月通信

AUTHOR(S):

CITATION:

ちかり、ちかり小星/ 海外通信/ 岡山支部二月通信. 天界 1924, 4(39): 132-132

ISSUE DATE:

1924-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160038>

RIGHT:

ちかり、ちかり小星

ちかり、ちかり、小さい星
ほんさにお前は何なんでせう！
世界の上に あんなに高く
空で金剛石のきらめくやうに

燃ゆるお日様沈んで
その輝きも失せたころ、
お前は小さい光りを見せて
一晩中を ちかり、ちかり

暗處を行く旅人は
お前の微光に感謝する、
若しもお前が瞬かないと
行く方角も判りません、

翳む蒼空見守りながら
折々窓からのぞき見します、
お日様空にまた上るまで
お前は眼を閉ぢないのです

輝くけれど僅かな光り
暗闇行く人の旅をも照す
ちかり、ちかり、小さい星
お前が何かは知らないけれど。

— Ann and Jane Taylor —

海外通信

水野千里様

二度目の御正月を米國で迎えました。日本
スは全く気分が違ひますネ。勿論、クリスマ
スの方が此方では遙かに賑々しいのですから
「しかし、私共は今年の御正月には御雑煮
も祝ひましたし、御餅も食べましたよ。
今年の末には歸朝するつもりです。今まで
米國にばかり居ますが、それでも大陸を東西
に三度も横断しましたし、可なり旅行をし
した御蔭で、天文臺は大小實に二十六ヶ所を
見ました。中にはすいぶん貧弱なものもあり
ますが、しかし、多くは立派なもので、私の
ためには大きな見學になりました。

當地のハーグロッド大學は、望遠鏡などの設
備の點に於いては至つて舊式で、一寸見た所
米國では第三流の天文臺ぐらゐに見えます。
しかし、流石に米國文教の中心地にあるだけ
一般學界との接觸は頻繁ですし、市氏一般に
學問に對する理解は深くありますし、天文臺
としては圖書の豊富な事驚くばかり。私は誠
に落ち付いた心地で勉強してゐます。

米國には吾々の天文同好會みたいな者が多
くあります。それ、色んな事をして天文趣
味を味はつて居るやうです。顧みて、貴兄が
岡山で天文普及のために御働き下さる事は非
常に貴重な社會教育的貢獻であると思ひます
くわしい事は歸朝して申上ませう。岡山あた
りには是非天文臺を建てなければならぬこと
を更に痛切に感じます。米國の割合からい
ては日本全體には二三十ヶ所の天文臺が無く
はならない筈です。單に京都や東京の大學
ばかりでなく、仙臺、札幌、福岡は言ふに及

(三〇)

ばす、各高等學校の所在地あたりには少く
さも七八時程度の赤道儀の設備があつて然
べきだと思ひます。

津山の山本氏のやうな、若い有望な天文家
を多く養成して下さい。之れは、日本の現状
から見ても望遠鏡よりも大切なことです。貴
家の御嬢さんも天文家に御育てになりませ
んか。英語を勉強して置けば、米國の女子大學
や天文臺あたりへ、いくらでも御世話します
よ。全く、之れは冗談でなしに。
貴兄の御寫眞は何時も私の机の上にあ
ります。先は右、新年狀の御禮かたぐ。宮原教授
によるしく。

ハーグロッド天文臺にて
一九二四年二月二十日 山本 一清

○岡山支部二月通信
一、例會 三日午後七時から岡山市立商業學
校で支部例會開催左の講演があつて後、天
體觀望、ストリアを取込んで閑談した。天
オリオン星座について 水野支部幹事

二、天界研究會 例の通り第二土曜日(九日)
午後七時から宮原幹事宅で開いた。
三、天文講話會 二十三日午後一時から午後
五時迄、上道郡操南小學校で同郡理科研究
會主催の講話會に水野支部幹事出席左の講
話をした。

太陽と曆との話
四、通俗天文夜話第一集 水野支部幹事の著
で近々帝國書院から出版せられる筈である
正誤表

△前號七二頁下段終から五行目「あとの雁は」
の次に「いつまでも後の雁に」挿入の筈。
△十二日號編輯室より中にシヤブリーをウ
イルソン山天文臺長と記せば誤記に付き訂
正す。